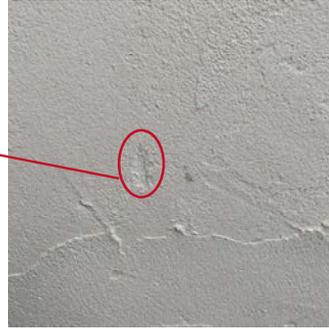


# 塗壁の補修マニュアル（室内編）

## まずは、傷の補修編

モノがぶつかって削れた傷



水の量が多すぎるとBのようにべちゃべちゃになるので注意

堅さは割りばしでつかめる程度

※補修する壁の下には新聞紙やビニールなど敷いておくとながら落ちた場合にも床を汚さない



用意するもの

- ・塗壁の元（室内壁用）
- ・ビニール袋（厚手のものが安心）
- ・スプーン：使い捨て（コンビニなどで貰うもの）
- ・割りばし
- ・刷毛（使い古しの歯ブラシでOK）



削れた傷の上に少し多めに載せて、落ちないように少し押し付ける（手で押しつけてもOK、ビニール手袋を使用する方がいい）



室内壁用の塗壁の元から軽くスプーン1杯程度を袋に入れる

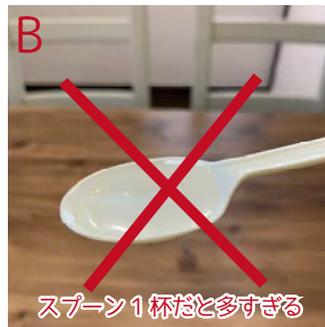
水を入れたら、袋の上から揉み粉となじませる



刷毛やブラシを使って周りと同様に馴染ませる  
この時余分な材料は落としてしまう



ほんの数滴でOK



スプーン1杯だと多すぎる

水の量

- A スプーンにほんの数滴 ○
- B スプーン1杯 ×

スプーン一杯入れてしまうと多すぎる

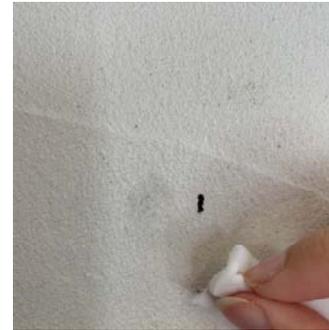


完成！！乾くとほぼわからなくなる

# 続いて汚れの補修編



実験用に色々な汚れ  
左からエンピツ・ボールペン  
・油性マジック  
用意するもの  
消しゴム  
メラニンスポンジ  
サンドペーパー



ほぼ消える  
油性マジック×メラニンスポンジ  
方法はボールペンと一緒に  
しばらくやっているとなんか消える



エンピツ汚れ×消しゴム  
汚れをこする  
綺麗に消える



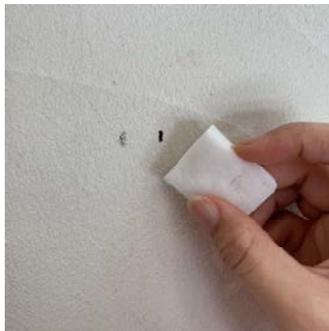
直後は濡れているので少し目立つ  
乾くとほぼ分からなくなる



ボールペン汚れ×消しゴム  
薄くはなるが完全には消えない  
消しゴムは油性の汚れには弱い



上記でも落ちない頑固な汚れは  
サンドペーパーで表面を軽く削る  
目の粗いもので削れ過ぎてしま  
うのが心配な場合は、目の細かいもの  
をつかう



ボールペン汚れ×メラニンスポンジ  
メラニンスポンジは水を少し含ませ  
汚れを叩くようにつかう



塗りのパターンや向きに合わせて  
ゆっくり丁寧に削る

完璧に汚れが落ちなくても  
汚れや補修あとも思い出なので  
経年変化も楽しんで下さい^^